

市長年頭記者会見 概要

■日時：令和4年1月7日（金）午前11時から午前11時46分まで

■場所：市庁舎5階第4会議室

■相手方出席者：朝日新聞社、読売新聞社、東京新聞社、神奈川新聞社、毎日新聞社、テレビ神奈川、時事通信社、日本経済新聞社、タウンニュース社

■市側出席者：市長 桐ヶ谷 覚、副市長 柏村 淳、経営企画部長 福井 昌雄、経営企画部担当部長 福本 修司、総務部長 田戸 秀樹、市民協働部長 岩佐 正朗、福祉部長 須藤 典久、環境都市部長 石井 義久、環境都市部担当部長 芳垣 健夫、教育部長 村松 隆、消防次長 山田 慶造、経営企画部参事（秘書・基地対策担当）米山 裕昭、消防予防課長 鈴木 頼嗣

■陪席者：経営企画部参事（企画担当） 仁科 英子、広聴広報係長 西 久美子

■配付資料

令和4年 逗子市長年頭記者会見（要旨）

米海軍横須賀基地ジャレット司令官、桐ヶ谷逗子市長とのオンライン会談資料（追加資料）

■内容：下記のとおり

【経営企画部参事（企画担当）】

定刻になりましたので、逗子市長の年頭記者会見を始めます。まずはじめに、市長から発言をさせていただきます。

【市長】

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2度目のコロナ禍での年明けとなりました。例年ですと小坪のみかん投げが2日に行われて逗子も賑やかになるわけですが、昨年に引き続き今年も中止となりました。昨年は出来ず、今年はやるぞとっておりました消防出初式も雪の影響で表彰のみの式典ということになります。市内一周駅伝競走大会は予定どおり開催する準備をしています。成人式も対策をしつつ開催する予定で準備をしております。

毎日、ニュースでオミクロン株の感染拡大が声高に報じられています。我々もしっかりと対応を取りながら今後進めていくということになると思っております。

●まずはじめに 昨年を振り返って

○コロナの一年（1、2回目のワクチン接種はスムーズに）

昨年はコロナ対策の一年であったということになるかと思えます。コロナ対策も自治体により、さまざまな判断がされてきたということでもあります。逗子市におきましては、昨年は開催を見送る自治体も数多くありましたけれども、成人式を行いました。一生に一度

の一つの節目と考えますし、入学式ですとか卒業式ですとかそういったものも、可能な限り万全を期して実行をしていきたいという考えを持っておりまして進めてまいりました。

5月からはワクチン接種が開始となりました。供給量が少ない中で接種券をもし大量に配付するならば、混乱するであろうということは想定していました。そこで、供給量に応じて予約枠数を決め、接種券を送るという方式を採りました。我々は「返子方式」と言っておりますが、大変効果がありました。全く混乱なく接種が進んでいきました。市民の皆様からも大変好評でした。

○海水浴場の開設⇒緊急事態宣言による休場

一昨年は県下の海水浴場が一切開設せずという年になりました。昨年は自治体ごとの判断でした。近隣でも開設せずというところがありました。一昨年、開設しないのに一定数の方々が海に来たことを考えますと、しっかりと対策した上で、開設者としての権限を持って進めていく方が安全を確保できると判断したものであります。しかしながら、開設してすぐまん延防止等重点措置区域の指定や緊急事態宣言の発出などがありまして、混乱を来たした訳ですが、開始前に返子海岸営業協同組合や自治会の皆様としっかり話し合いをして、どの状態になったらどの対策を取るか事前に決めておりました。そういった観点から、混乱なく協力をいただいて粛々と進められたと感じております。

○10億円の寄附 奨学金財団の設立

昨年の明るいニュースとして、10億円の寄附をいただいて給付型奨学金制度を創設するということになりました。今現在は、寄附者の意向に沿った奨学金給付事業を開始するため、まずは一般財団法人の設立の準備に入ります。まもなく、来週だろうと思っておりますが、一般財団法人を設立し、その後に公益財団法人に切り替えるという準備をしております。国内外を問わずリーダーとして活躍したいという高い志を持ち、かつ経済的理由により修学困難な方を出来るだけ救いたいという考えであります。また、令和4年4月にスーパーグローバル大学などに進学する方の中で、所得基準などの一定要件を満たす方を救うということで準備を進めているところです。選考に当たりましては、ひとり親家庭を優先したいと考えているところです。

1、新型コロナウイルス関係について

○3回目ワクチン接種の状況について

新型コロナウイルスの対策としては、3回目の接種を進めていきます。近隣市町の中には早めるということもいくつかありますが、我々も医療従事者の接種は既に前倒しを始めていますし、高齢者施設等の入所者・従事者の接種も準備しています。2月からは、高齢者を皮切りに一般市民向け接種も進めます。集団接種は、昨年は2カ所でした。市民交流センターと体験学習施設スマイルですが、今年は体験学習施設スマイルのみで集団接種

を進めてまいります。個別接種を市内の約30の医療機関で準備しています。昨年のスタート時、106歳からの年齢順でした。時によっては一歳刻みで接種券を発送したくらい、人数とワクチンの数でコントロールしてまいりました。3回目もその流れで進めてまいりますので、おそらく混乱はないものと想定しております。

○事業者向け相談窓口の拡充

事業者支援としては、直接給付するような直接支援と経済活動を回していくための二つの側面があると思います。直接的な部分では、昨年5月になりますが中小企業者等事業継続応援給付金、これは10万円の給付でした。県の拡大防止に対する協力ということで新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金20万円を支給しました。合計で約2億円、1億8,500万円強の費用を投入しました。他に家賃補助をいくつか行いましたが、合計で1,560万円程支援をさせていただきました。その他に、新しい生活様式に対する支援ということでありまして、事業者向けに580万円を支援しました。他に市内の経済活動を応援するという意味で返子応援プレミアム付き商品券を昨年11月に行いまして、4億5,300万円ほどでした。即完売でして、非常に良かったのですが、クレームもありました。「市民が買えない」ですとか、「働いている人からは平日に売ってどうするんだ」ですとか、お叱りも多数いただきました。そこで今年は電子商品券にいたしまして、金額にしますと約3億円ですが、いま現在進行中です。昨年の紙媒体と今年の電子でさまざまな比較をしながら進めていきたいということで進行中です。また、昨年は全市民一律に返子応援クーポン券ということで1人2,000円配付させていただきました。1億1,300万円程であります。これまでの経済効果といたしましては、合計で8億6,600万円で、これが市中を応援するための資金となったということです。

返子独特の策としては、事業継続に対する相談窓口を応援したいと考えておりました。使ったお金は300万円です。しかし、これが大変な経済的効果を産んでいると思っています。国のメニューはたくさんあり、事業復活するための補助金制度とか、さまざまな制度をご用意いただいておりますが、事業者からすると、自分が何を申請できるのか見えない、分からない。そこで専門家を商工会に派遣してもらいまして、本来商工会の職員も経営指導員ですのでやるのですが、中小企業診断士といった方々を派遣していただいて相談窓口を設置しました。その費用は市で持ちました。これが先程申し上げた300万円であります。結果、事業再構築補助金ということで申請して採択された金額が、9,728万円になりました。また、ものづくり補助金を申請していただいたお金が758万円ございまして、その中小企業診断士を含めた、さまざま支援いただいた方の総額になりますと、1億466万円の採択をいただいたところであります。私は、市内の経済を見ていて、全員がコロナだから落ちているというのであれば他の手があると思うのですが、かえってプラスに転じている事業者の方もいらっしゃいます。中にはコロナで相当ダメージを受けている方もいらっしゃいます。その中で事業の再構築をすることが今後の生き残りと考えますと、そこに専門家の知恵をお借りし

たいと考えまして、その人件費等は市が負担するという事にさせてもらいました。結果が1億円を超える国の助成に結びついたというところであります。これは非常に特殊な例ですが、大変良い結果が出たなと思います。いま、商工会の会員数が増加しています。こういう相談をしたことで商工会の会員になるという方も増えているということでもあります。余談ですが私が商工会長当時、会員数はずっと右肩下がりで減少しておりました。1,100人を切るところまで来ておりましたが、今は100以上大変に会員数も増加していると聞いております。県内の商工会の中でも逗子は大変特異な存在だと聞いておまして、それはこの対策等がうまく市内の事業者に対してマッチしたということなのかなという風に考えています。

2、市長としての4年目に向けての考え方

早いもので丸三年経過しました。残りは一年というところまでまいりました。当初、出馬に当たりましては財政再建を一丁目一番地として取り組むと申し上げてまいりました。企業誘致ですとか起業支援をしながら財政再建を果たすということを旗印にこれまでやってまいりました。それは今後も変わりません。その中でやった事業としまして、初年度はplatform ZUSHI BIZを立ち上げまして、逗子に目を向けてほしいという施策を取ったところです。残念ながらスタートしてすぐに新型コロナウイルスがあり、翌年は開催、企画が出来ずにここまで来ております。しかしながら、その中でもやれることは手を打ってきたところでもあります。platform ZUSHI BIZの立ち上げの時に慶應義塾大学の島津先生から「ワーケーションが逗子に向いているのではないか」とご提案をいただきました。その時は、ワーケーションを逗子で出来るのかと思いました。それまでのワーケーションのイメージは軽井沢や和歌山が先行しておまして、そうしたところがワーケーションに向いているのではないかと感じたところです。いざコロナ禍になり、在宅の勤務などが広がってきた時に却って逗子の方がワーケーションの立地に向いていて、効果があると思いました。実際に昨年はワーケーションの体験ツアーを企画しまして、参加いただいた方々は逗子の立地、アクティビティが海あり山ありで満足度が非常に高かったようです。移住者も増えてきている、また、住みたい街等の評価でも上位の方にランクしていただいている、いろいろな意味で初年度にplatform ZUSHI BIZを立ち上げたことが、いま機能していると思います。コロナを言い訳にせずに残された任期に結果が出るように全うしていきたいと考えております。

○市民に「住んでいて良かった」と思ってもらえるまちづくりを

市民の方に住んでいて良かったと言ってもらえるまちにしたいという思いを強くしております。

ワクチン接種のときに、混乱なく接種を受けられた市民の皆様から大変喜ばれました。当時は、どこのニュースでも予約を取るのに三日かかったなどという話題でした。逗子市の場合一回で取れたという話からこのまちに住んでいて良かったという声を聞いた時に、住

んで良かったと言ってもらえるまちにすることが行政の役割だと強く感じました。幸せと感してもらえる回数を増やしていけることが住む方にとって幸せ感が増えてくることではないかと思います。大きい箱物を作れば幸せでしょうというものではないんだとも感じました。

3、令和4年に重点的に取り組むこと

○財政再建／企業誘致・起業促進／女性が活躍できるまちづくり

財政再建は引き続きのテーマです。昨年、令和2年度の決算時に一般会計の剰余金が16億5千万円程でして、歴代2位の金額であったとお話いたしました。今年度末には相当の金額を財政調整基金に積み上げることができる見込みとなっておりまいました。金額は、第1回定例会の会見でお伝えできると思います。

○脱炭素対策に本腰を入れる

脱炭素対策に本腰を入れて進めてまいりたいと思っております。逗子が先行して宣言しているかという、そうではございません。却って遅いくらいですが、内容を伴ってスタートしたいと考えておりました。市としましては、再生可能エネルギーでの電力の購入は昨年度から始まっておりまして、一定の成果を出しております。他にこれを進めるに当たりまして、逗子市には大きな企業・工場がある訳ではございませんので、住宅地としての逗子市でありますので、どのようなかたちで脱炭素の課題に取り組むか考えておりました。市民の皆様との協力なしには進められないと考えておりますので、市民の皆様を巻き込んだ形でどういった脱炭素の取り組みが出来るのかを課題と考えております。そのためには環境教育ですとか、ごみの減量化・資源化等をベースにしながら、市民の皆様にもご協力いただける体制を作れるのかを含めてこの課題に取り組んでいきたいと考えております。令和4年度からは脱炭素に向けた取り組みを本格的に進めてまいります。

○公共施設（含む公園遊具）の長寿命化

公共施設の老朽化対策は重要課題としつつも、これまで全く着手出来ておりませんでした。これを令和4年度から5か年にわたりまして39億円程度、約40億円の事業を想定していますが、地方債の活用等を含めて財源を賄いながらやっていくこととしております。これは必ずやります。ルール等はまた機会があればゆっくりお話しさせていただきますけれども、私が就任した時は12月ですので新年度の予算案は既にほぼ確定しておりました。その翌年に令和2年度の予算編成が事実上初めての予算編成でした。その時に所管は対策しなければいけない予算を要求してまいります。しかし、予算を編成する段階で、扶助費などの義務的経費の増加で組めるかどうかというときに、長寿命化の予算が5,000万円要りません、6,000万円要りませんと言われても、真っ先にカットせざるを得ない状況を目の当たりにしました。これは何年経っても無理だな、何年経っても長寿命化に手を付けられるはずがない

と考えましたので、昨年の1月でしたが議員の方々に個別に皆さんにお話しをさせていただき、財政調整基金を積んだその中から一定額を財源として、長寿命化に取り組ませていただきたいということでお話しをさせていただきました。それが令和4年度からスタートできる目途がついたというところでもあります。そうしたことで、やるべきことはしっかりやっ
ていく、中には小学校の手すりがボロボロになりながら、落下防止のために木材で止めている
ような状況で、それでも予算がつかない。これはあってはならないと考えまして、来年度
から可能な限りスピードを上げて準備してまいります。いずれにしてもしっかりと準備を
しながら令和4年のスタートを切るというところでもあります。

○中学校給食の食缶方式への移行

私が就任した頃も議員の方から温かい給食が欲しいんだとさかんに言われていました。ボックスランチも決してまずくはない、自分も食べていますし、生徒達の食べている様子も何度か見に行きました。それ自体は悪くないのですが、たまたま愛川町が親子方式で食缶方式を始めたというニュースを見まして、議員の方とも一緒に視察にまいりました。その時に湯気のでる温かな食缶方式を何としてもやるべきだと考えました。エレベータを設置するということは、構造的に無理があるし、高速のエレベータでなく、リフトのような運搬機を添えたところで混乱しか起こらないと感じておりましたので、食缶方式に対しては無理という考えしかなかったのですが、愛川町では子ども達が3階まで持って走るんですね。これならば可能であろうと感じました。そこで令和4年度の夏休み明け、9月から食缶方式による中学校給食を開始するというところで準備を進めているところです。

○移住促進対策には空き家の活用が鍵

移住促進対策には空き家の活用が鍵だと考えております。コロナ禍で逗子市が注目され、転入者が増えております。しかし、もう売る不動産がないとか、貸すものがないと聞いてお
りまして、逗子市として今後どうするのかと考えますと、新たに団地を造成するということ
は考えられません。空き家が1,500とも2,500あるとも言われている中で、どうやったら
市場に放出していただけるのか、所有者の方々に施策が打てれば、その中の何割かでも市場
に出てくる、これが移住の方々に対する呼び込みの切り札になるのではないかと考えまし
た。そこで来年度は予算に組み込みました。まずはトライアル&エラーの連続だと思
います。何がどうヒットするかやってみなければ分かりませんが、待っているだけでは解決
しないという考えから、移住促進対策のためにも空き家を活用するということを鍵に挑戦
していきたいと考えているところでもあります。

【経営企画部参事（企画担当）】

それでは質疑をいただきたいと思います。
まずは幹事社からお願いします。

記者) 全国的な問題ですが、各地の米海軍の基地でコロナウイルスの感染拡大が起っていて、横須賀でも高い値がでていているということで、逗子市には池子住宅がありますが、現状ではどのような話がイケゴから入っていて、市の受け止めはどのような感じで、市としてはどのような対策を希望しているかお聞きしたいと思います。

市長) 沖縄をはじめ基地があるまちでの感染が拡大していることは承知しています。横須賀でもかなり急激に感染が拡大していることは承知しています。逗子市としましては米軍池子住宅地区とそれ以外にも市内に居住されている方々がいらっしゃいます。こうした方々の状況を連携をとりながら、まずはしっかりと報告をもらいたいということで米海軍横須賀基地にもお願いをしております。実は今朝も司令官とお話しをさせていただきました。米軍もしっかりとした対策を取りつつ、現状には憂慮しているようですので、今後の対策に対しても遅れることなくやってもらえるものと感じております。幸い、逗子市内、池子住宅地区にしる感染はゼロではないようですが、しっかり管理された中で行っているという説明でありましたし、我々はそのとおりに進めてほしいとお願いしているところです。

記者) 今日お会いになった司令官の方は池子住宅地区の司令官の方ですか。

市長) 米海軍横須賀基地のジャレット司令官です。

記者) ジャレット司令官とお会いになったのは定例のものですか。

市長) いえ。こちらで状況の報告とこれからも頻繁に機会があればライブでの会議をお願いしたいと申し入れました。

記者) オンラインでお会いになったのですか。

市長) そうです。

記者) 市の方からは感染対策の徹底を申し入れたということですか。

市長) そうです。

記者) 市内にいま米軍関係は居住者の方を含めてどれくらいいらっしゃるのでしょうか。

経営企画部長) 公表されていませんので。

記者) 直近の数字ではいかがですか。例えば2年くらい前ですとか、国から降りてきた数字ですとか、3年前でも。そういった数字はいかがでしょう。

経営企画部参事(秘書・基地対策担当) 平成25年当時で発表されていたものが最後だと思います。その数字は調べます。それ以降は発表されていません。3,000人弱と言われていますが、何年か前の状況は、お知らせできるところは後程お知らせさせていただきます。

※記者会見終了後回答

池子住宅地区内居住者：3,120人(平成24年7月末現在)

地区外居住者(逗子市内)：289人(平成23年3月末現在)

記者) 今年、市長選挙があるということですが、これに対しての意気込みをお聞きできればと思います。

市長) 選挙そのものは12月ですので、まだ1年あります。私としては先程申し上げましたようにコロナの中で二年、就任した一年目と合わせて三年間経験してまいりましたが、何よりもまず結果を出さないと、というつもりです。まずは一年かけてやるべきことをしっかり進めてまいりたいというところであります。

記者) ワクチンについて、NHKの報道番組によるとモデルナとファイザーを奪いあっているみたいですが。入ってくるのか分からないし、モデルナだったら半分で良いんだとかいろいろなことが言われているみたいですが、3回目接種は逗子の場合はどうにするのでしょうか。選べるようにするのかですとか。

市長) 集団接種はモデルナでやる予定であります。個別接種はファイザーでやっていただきます。

記者) 去年は逆ですよ。集団がファイザーでしたよね。

市長) もし集団で受けた方でモデルナが嫌だという方がいらっしゃったら個別接種にご予約をお願いしますということにします。集団接種の中でこの日はモデルナ、この日はファイザーというのは混乱すると思いましたので、あくまで集団はモデルナで行い、ファイザーを希望の方は個別の方を選択していただくという棲み分けをしたいと考えています。

福祉部長) ファイザーが6、モデルナが4という配分で来ています。接種も早くということで、こちらとしても65歳以上の方は7カ月後の接種を前倒して行う予定でございます。

出来れば 65 歳以上の方、医療従事者の方等、基礎疾患のある方含め、3 月頃までに終わればと考えています。

記者) 大分前に、若い男子がモデルナをやると心筋炎になると言って、それが嫌だったら変えても良いとか、カスタマイズできるようなことを言っていて、どうするのだろうと思っていましたが、逗子はどうなさるのですか。

福祉部長) 確かにファイザーの方が若い方に対しては副反応が非常に強いということで、今までの実績からも、若い方になるにつれファイザーの供給量が増えるのでファイザーの接種がいかにも出来るかということ想定には入れているのですが、まだ、6 月頃の時期なので、それまでは、まずは高齢者の方から打っていただくので、若い方の接種は、ファイザーの確保、国からの配分を見極めながら想定しています。

記者) どこも皆、ファイザーが欲しいと言いますよね。

福祉部長) モデルナも量が半分になっているので、その辺りも前回とは違うのかなと。

市長) いずれにしましても、逗子の場合は年齢順で 1 回目をスタートした関係で、3 回目もまた繰り返されるわけです。ものすごく楽です。最初は車椅子ですから。車椅子対応の時はこうやって、だんだん若くなってきたらどんどんスピードアップして回転させるという策を取れるので、混在しないのが準備の上では楽です。

記者) 最初のあいさつにもありましたが、コロナ禍ではありますが企業誘致・産業振興などについて今年の見通しですとか希望は何かありますでしょうか。

市長) まだこうですというところまで申し上げられることは出来ないのですが、アフターコロナを考えますと、却って逗子はチャンスが出てきたと思います。前にも申し上げたかもしれませんが、東京のオフィスの空室率を注視して、あれが上がっている間はどんどんオフィスを縮小して在宅勤務を増やしつつ出社比率をどういう風にするかということ企業を考えていると捉えます。その分、逗子市におけるさまざまな展開が有利になると考えております。具体例までは申しあげられませんが、こちらに分社を設けてみたいという方々の声も聞いております。ですので、アフターコロナ、コロナ後にいろいろな意味で変わってくる可能性、チャンスがあるのではないかと、それが企業誘致ですとか雇用の増ですとかということにつながってきてほしいと思っています。まだ実績が出るころまでは行っておりませんので済みません。

記者) 小坪飯島公園の指定管理制度のことで、ラジオ体操の会という人達が指定管理制度に反対をされていて、もともと子ども達が遊ぶような土地を最大3分の2の土地を使ってカフェなどを開く、小坪を活性化するという意味では理解は出来るけれども企業誘致を自分達のところでもらうのもどうなのか、というような意見がかなり説明会でも反対の声があったようですが、今後の対応をどうするか教えていただければと思います。

市長) あそこをサッカーですとか野球ですとかで利用されている方々を含めて事前に説明をしながら落としどころを探ってまいりました。かなりご理解をいただいてこれでほぼ行けるのではないかと思ったときに、説明会を開いたところ反対の声が上がったところが現在であります。そこで強引に指定管理をしていくということではなくて、もう一度住民の方々と話し合いをしながら落としどころがあるのなら探していきたい。あの場所は活用すべきだという声も中にはあるんです。反対の方が半分とするならば、賛成の方も半分いらっしゃるはずですが、反対しか声は表に出ないものですから、すべてが反対のように感じますけれども、一定数あそこの土地の優位性を活かすべきでないかという方々もたくさんいらっしゃいます。そうした声を聞きながら、どういう落としどころが市民にとって幸せなのか探っていきたいと考えています。話し合いを継続するという考えでいます。

【経営企画部参事（企画担当）】

よろしいでしょうか。それでは本日の記者会見を終了いたします。
どうもありがとうございました。

市長) どうもありがとうございました。